

業界に先駆けた現地工事における完全週休2日制導入

日本橋梁建設土木施工管理技士会

JFE エンジニアリング株式会社

監理技術者

担当技師

伊 佐 和 人[○]

木 邑 義 孝

1. はじめに

近年、日本の労働環境は超過労働の問題から完全週休2日制もしくは週休3日制の導入やテレワークの採用など働き方改革を実践しライフワークバランスを調整する動きがある。そのような中において建設業は週休1日が慣例であり世間の動向からは大きく遅れている。また、建設業は技師不足・若手作業員不足という問題を抱えており、その背景には建設業に対する負のイメージが影響している。そこで社会保険の加入義務付けや女性技師・作業員の積極的な採用等の就業環境の改善により建設業のイメージアップを図っている。

しかしながら、建設業における完全週休2日制の導入にあたっては作業員の賃金体系など多くの課題を解決しなければならない。

そこで本報告では、業界に先駆けた現地工事に

おける完全週休2日制の実施状況の報告と今後の課題について述べる。

2. 工事概要 (図-1)

- (1) 工 事 名：多伎朝山道路口田儀第2高架橋鋼上部工事
- (2) 発 注 者：国土交通省中国地方整備局松江国道事務所
- (3) 工事場所：島根県出雲市多伎町口田儀 地内
- (4) 工 期：平成28年2月13日～平成29年9月29日
- (5) 橋梁形式：鋼単純合成細幅箱桁橋
- (6) 架設方法：送出し架設

3. 完全週休2日制導入における課題

完全週休2日制の導入にあたり下記の課題について解決しなければならない。

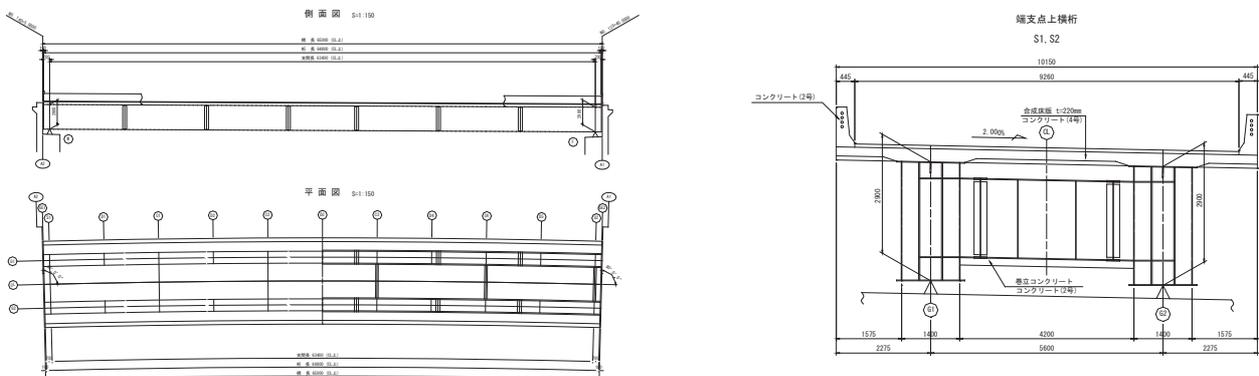


図-1 構造一般図

表-1 橋梁特殊工：計算例（円/日）

	月	火	水	木	金	土	日	合計
従来	27,000 (8H)	27,000 (8H)	27,000 (8H)	27,000 (8H)	27,000 (8H)	27,000 (8H)	休工	162,000 (48H)
週休2日	33,750 (9.6H)	33,750 (9.6H)	33,750 (9.6H)	33,750 (9.6H)	33,750 (9.6H)	休工	休工	168,752 (48H)



図-2 ITツール

1. 作業員の給与の補償
2. 労務費の増大
3. 工期の長期化に対する対策
4. 職員業務の軽減

特に『作業員の給与の補償』に関しては、作業員の給与体系が日給月給であるため週休2日制を導入することにより1ヶ月内での労働日数が減少（最大5日）し給与が目減りしてしまう。さらに作業員の給与を単純に補償してしまうと現地工事予算において労務費が増大してしまうという問題がある。また、土曜日が休みになることにより単純に工期が延びることになってしまう。

これらの問題を解決しなければ完全週休2日制を導入することは難しい。

4. 対応策と適用結果

『作業員の給与の補償』対策として、協力業者と協議を重ねた上で、就業する月曜日から金曜日までの労働可能時間を8時間から9.6時間（早出残業）に増やし、割り増し金額を支払うことで作業員の給与を確保した。具体例を表-1に示す。また、1週間での総労働時間が同じになるため工期の長期化が避けられた。そのため労務費を単純に『作業員の給与の補償』した場合に比べ抑える事が可能となった。

『職員業務の軽減』の対策として、ITツール（日本橋梁建設協会でも推進しているi-Bridge）を

活用した。これにより、現場施工場所での不要な常駐時間を低減させるとともに現場作業終了後の書類作成時間を削減出来た。

本工事で使用したITツールを図-2に示す。

5. 今後の課題と対策

1. 市街地対策

本工事では早出残業が可能な地域であった（地元説明会で了解を得た）が、早出残業が出来ない地域では労働時間（日当たり施工量）調整が困難となるため、パーティー数を増やすなどの対策が必要となる。その際は労務費の増加が考えられる。

2. 冬季の日照時間が短い時の設備費

日照時間が短くなる冬季に早出残業する場合は、照明設備を設置する必要があり、設備費の増加が考えられる。

上述の課題に対して、労務費自体が底上げされれば、殆どの問題が解決され、作業員の給料化が実施されれば同じ効果が得られると考えられる。

6. おわりに

今回の取り組みは、暗中模索の状態での実施でした。当初は、協力業者も懐疑的でした。協議を重ねることで理解を得られ実施に踏み切れた事を誇りに思います。工事期間中は工程管理にプレッシャーを感じましたが無事完全週休2日を実施し完工できてほっとしています。